

38 高次脳機能障害者への社会的支援(3)－医療福祉相談室における支援についてその2－

医療相談開発部 菅原美杉 森曜子 上村裕子 藤井英恵 中島綾子 嶋田未希 佐久間肇

1. はじめに

高次脳機能障害への支援の難しさ〔① 社会資源の不足（社会資源活用の難しさ、社会資源開拓の必要性）② 継続的な支援の必要性 ③ 家族支援の重要性など〕は、多くの関連の書籍、研修会などで既に報告されている。医療福祉相談室（以下当室という）においてもこれらの点を踏まえた支援を行っているが、当室の体制が変化の中で支援実施上の新たな課題を感じている。これまでの支援を振り返りつつその対応策について検討を行っているので報告する。

2. 支援の流れ及び概要

当室における支援の流れ及び概要は別表のとおりである。（表1）

3. 支援上の困難性と対応策

1) 人材育成の必要性

医療ソーシャルワーカー（以下、MSWという）の役割は、ソーシャルワークアセスメントによる問題点の整理、活用可能な社会資源の洗い出し、関係部署及び機関との連絡調整、情報提供等である。このような基本的なスキルを身につけたとしても、なお、豊富な情報量と、既存の社会資源同士を有機的に結びつける力が求められる。対応するMSWによって支援内容に差が生ずるような事は極力避けなければならないため、勉強会及びケース検討会の実施、業務マニュアルの作成等を行った。

2) 地域における支援ネットワーク形成の必要性

高次脳機能障害者が地域での生活を円滑に行っていくためには、各種施設・作業所・精神保健センター等の既存の専門機関が、それぞれの特性を生かしながら有機的に結びつき、支援の体制を整えていくことが望まれる。これら機関に所属する「人」と「人」とが結びついて始めてネットワークが形成される。また、MSWの交替があった場合においても継続的な支援を適切に行うためには、引継ぎを行う他に、支援ネットワークを活用するための具体的な手順が必要となる。

3) 継続的な支援の必要性及び家族支援の重要性

高次脳機能障害者は、退院後の様々な生活場面で不適応状態に陥ることが多いため、退院後も継続的な支援が求められる。専門機関へのリファーを効果的に行うことも肝要であるが、本人ならびに家族が自身の力で、専門機関へ問い合わせることや、生活全般を見直し、立て直しを図るなど、生活そのものをマネジメントする力が必要となる。その一助とすべく「社会資源カード」を相談の過程の中で共に作成し活用している。

4. 今後の課題

当センター病院、外来通院中の患者については、医師や他の専門職側で状況を把握しやすく社会的支援の必要性が生じた場合にはMSWへの依頼や相談へと繋がり、具体的な支援展開が可能になる。一方、関わりが切れてしまった方の場合には継続的な支援とはなりにくく、患者や家族等から応援要請があつて初めて支援を行うきっかけがつかめるのである。

今後は、MSWのスキル向上、時宜を得た支援実施に向けてのシステムの構築、さらに地域の専門機関との連携に力点をおいた働きかけ等を行っていく予定である。

表1 医療福祉相談室における高次脳機能障害者への支援の流れ及び概要

